

9月9日は 救急の日

9月9日は「救急の日」、9月6日から12日までは「救急医療週間」です。

今回は、亀山市の救急の現状と救急車の適正利用などについてご紹介します。



問合せ先 消防本部消防救急室 (☎82-9496)

■数字で見る亀山市の救急 (平成27年1月～6月)

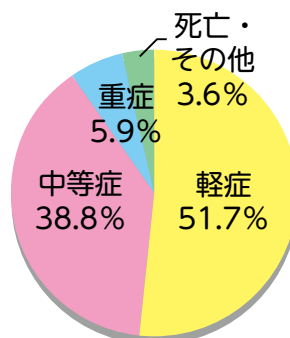
① 平均出動件数は1日に5.6件 ② 搬送人員の約半数が軽症

出動件数は1,018件で、前年同期と比べて16件減少しています。事故種別では、急病によるものが最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順となっています。

出動件数

種別	件数	割合
急病	664	65.2%
一般負傷	137	13.4%
交通事故	127	12.5%
自損行為	9	0.9%
労働災害	6	0.6%
運動競技	5	0.5%
火災	3	0.3%
加害	2	0.2%
その他	65	6.4%
合計	1018	

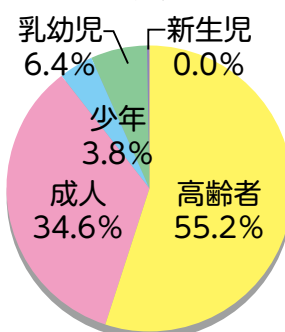
搬送人員 953人



傷病程度比率

軽症：入院を必要としないもの
中等症：入院を必要とするもので、重症に至らないもの
重症：三週間以上の入院加療を必要とするもの
死亡：初診時において死亡が確認されたもの
その他：医師の診断がないものなど

③ 搬送人員の約半数が高齢者

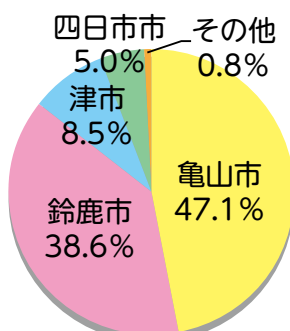


年齢区分比率



高齢者：65歳以上の者
成人：18歳以上65歳未満の者
少年：7歳以上18歳未満の者
乳幼児：生後28日以上7歳未満の者
新生児：生後28日未満の者

④ 搬送人員の約半数が市内医療機関へ ⑤ 現場到着まで9分24秒(平均)



市別の搬送比率

亀山市内の医療機関への搬送比率は、増加傾向にあります。また市外の救急患者を亀山市内へ搬送する事例も増えています。



通報から現場到着までの平均所要時間は9分24秒で、前年同期と比べて12秒短縮しています。



■こんなときは、すぐに119番！ 重大な病気やけがの可能性あります。

大人	小児(15歳未満)
顔 ●顔半分が動きにくい、あるいはしびれる ●ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ ●ろれつがまわりにくい、うまく話せない ●視野がかける ●ものが突然二重に見える ●顔色が明らかに悪い 頭 ●突然の激しい頭痛 ●突然の高熱 ●支えなしで立てない、ぐらぐらにふらつく 胸や背中 ●突然の激痛 ●急な息切れ、呼吸困難 ●胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2～3分続く ●痛み場所が移動する 手足 ●突然のしびれ ●突然、片方の腕や足に力が入らなくなる 腹 ●突然の激しい腹痛 ●持続する激しい腹痛 ●吐血や下血がある	顔 ●くちびろの色が紫色で、呼吸が弱い 頭 ●頭を痛がって、けいれんがある ●頭を強くぶつけて出血がとまらない、意識がない、けいれんがある 胸 ●激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い 手足 ●手足が硬直している おなか ●激しい下痢や嘔吐で水分が取れず、食欲がなく意識がはっきりしない ●激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない ●ウンチに血がまじった

参照：総務省消防庁「救急車利用マニュアル」

■慌てずにお伝えください！

もし、救急車を要請して現場に救急隊が到着したら、慌てずに次のことをお伝えください。

一刻を争う救急現場では、1分1秒たりとも無駄にすることはできません。傷病者への必要な処置や症状などに応じたスムーズな搬送を図るため、ご理解とご協力をお願いします。



三重県認定指導救命士 服部 裕也

伝えてほしい内容

- 事故の状況や体調が悪くなってから救急隊が到着するまでの容態やその変化
- 応急手当などを行った場合はその内容
- 具合の悪い人の情報（持病、アレルギー、かかりつけの病院、普段飲んでいる薬など）

■救急車の適正な利用を！

依然として、明らかに軽症と思われる人、タクシー代わりの出動要請など、緊急性の低い事例がみられます。いざというときの安心のため、有効な利用にご協力ください。

また、救急車を呼ぶほどではないが、診察してもらえる病院が分からないなど、困ったときは、救急医療情報システムをご活用ください。

救急医療情報システム

- 医療情報センター（対人案内）☎82-1199（局番なし）
- パソコン URL <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>
- 携帯電話 URL <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>
- 自動案内 ☎0800-100-1199

（通話料無料、ファクスでも受診可能）

※受診の際は、必ず紹介された医療機関に事前確認してください。